



<b>ファームウェアバージョン:</b> V3.00.B011	
<b>ハードウェアバージョン:</b>	DGS-3620-28TC
	DGS-3620-28SC
	DGS-3620-28PC
	DGS-3620-52T
	DGS-3620-52P
<b>発行日:</b> 2018/12/5	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

## 目次：

変更履歴とシステム要件：	2
アップグレード手順：	2
CLI（シリアルポート）を使用したアップグレード	2
Web-UI を使用したアップグレード	5
追加機能：	8
MIB および D-View モジュールの変更点：	8
コマンドラインインタフェースの変更点：	8
修正した問題点：	8
既知の問題：	9

## 変更履歴とシステム要件：

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
ランタイム：v3.00.B011	2018/12/5	DGS-3620-28TC	A1、B1
		DGS-3620-28SC	
		DGS-3620-28PC	
		DGS-3620-52T	
		DGS-3620-52P	

## 注意事項：

1. 本ファームウェアには、EI および SI の機能が含まれています。
2. ハードウェアバージョン：B1 は、R2.50.024 以降のファームウェアをサポートしています。  
R2.50.024 より前のファームウェアにダウングレードすると、スイッチは動作しません。

## アップグレード手順：

アップグレードを行うには、CLI(シリアルポート)を使用する、もしくは Web-UI から行うことができます。

## CLI (シリアルポート) を使用したアップグレード

1. スイッチの RS-232C シリアルポート（コンソールポート）と PC を接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。（本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。）

- ボーレート：115200
- データビット：8
- パリティ：none
- ストップビット：1
- フロー制御：none



2. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。管理者のユーザ名及びパスワードは、初期状態では登録されていないので「enter」キーを 2 回押し、ログインします。
3. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
download firmware_fromTFTP <ipaddr> src_file <path_filename 64> dest_file <pathname 64>	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
config firmware image <pathname 64> boot_up	Boot up イメージファイルの変更をします。
show boot_file	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
reboot	スイッチをリブートします。

以下の例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

## 例:

(1) スイッチにファームウェアをダウンロードします。スタック構成の場合は、allオプションを付けて実行してください。

```
DGS-3620-28TC:admin#download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 src_file DGS3620_Run_3_00_B011.had dest_file DGS3620_Run_3_00_B011.had
```

```
Command: download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 src_file DGS3620_Run_3_00_B011.had dest_file DGS3620_Run_3_00_B011.had
```

```
Connecting to server..... Done.
```

```
Download firmware..... Done. Do not power off!
```

```
Please wait, programming flash..... Done.
```

```
Success.
```

<スタック構成時のコマンド例>

```
download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 src_file DGS3620_Run_3_00_B011.had all dest_file DGS3620_Run_3_00_B011.had
```

**注意：CLIによるスタック構成のアップグレード時、スレーブユニットのアップグレードが完了していないにもかかわらず、ステータスが「Done.」と表示される場合があります。以下の手順を実施し、アップグレードが確実に行われるようにします。**

(2) スタック構成の場合、以下のコマンドを実行し、各ユニットのアップグレードが完了していることを確認します。スタック構成でない場合は、アップグレード完了後、手順（4）に進んでください。

```
DGS-3420-28TC:admin#sh log
```

```
Command: show log
```

Index	Date	Time	Level	Log Text
-------	------	------	-------	----------

13	2017-07-18	08:17:41	INFO(6)	Unit 1, Firmware upgraded by console successfully (Username: Anonymous)
----	------------	----------	---------	---

12	2017-07-18	08:17:37	INFO(6)	Unit 2, Firmware upgraded by unknown successfully (Username: Anonymous)
----	------------	----------	---------	---

(3) アップグレードが失敗しているユニットがある場合は、ユニットIDを指定してアップグレードを再度実行します。両方のユニットでアップグレードが正常に完了している場合は手順（4）に進んでください。

```
DGS-3620-28TC:admin#download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 src_file DGS3620_Run_3_00_B011.had unit 2 dest_file DGS3620_Run_3_00_B011.had
```

```
Command: download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 src_file DGS3620_Run_3_00_B011.had unit 2 dest_file DGS3620_Run_3_00_B011.had
```

```
...
```

(4) ブートアップイメージを指定します。スタック構成時はユニットIDを指定して、ユニット毎にブートファイルを設定します。

DGS-3620-28TC:admin#config firmware image DGS3620\_Run\_3\_00\_B011.had boot\_up

Command: config firmware image DGS3620\_Run\_3\_00\_B011.had boot\_up

Success.

<スタック構成時のコマンド例>

config firmware image unit 1 DGS3620\_Run\_3\_00\_B011.had boot\_up

(5) 現在のブートファイルを確認します。

GS-3620-28TC:admin#show boot\_file

Command: show boot\_file

Bootup Firmware : /c:/ DGS3620\_Run\_3\_00\_B011.had

Bootup Configuration : /c:/config.cfg

(6) スタック構成の場合は、dirコマンドを使用してユニットIDとドライブを指定し、ユニット毎にブートファイルを確認します。

(スタック構成でない場合は本手順は不要です。)

GS-3620-28TC:admin# dir unit 1 C:

Command: dir unit 1 C:

Directory of /C:

Idx	Info	Attr	Size	Update Time	Name
1	RUN(b)	-rw-	8298396	2018/07/06 05:22:49	DGS3620_Run_3_00_B011
2	RUN	-rw-	8281172	2018/01/26 05:36:10	DGS3620_Run_2_70_B016.had
3	RUN(*)	-rw-	8298396	2018/07/06 05:08:42	DGS3620_Run_3_00_B011.had
4	CFG(*)	-rw-	45079	2018/07/06 05:18:10	boot
5		d---	0	2018/07/06 05:18:37	system

126253 KB total (101349 KB free)

(\*) -with boot up info

(b) -with backup info

(7) スイッチを再起動します。

DGS-3620-28TC:admin#reboot

Command: reboot

Are you sure you want to proceed with the system reboot?(y/n)y

**注意 : スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

4. 上記のリブートが行われた後に、“show switch”コマンドを実行して、ファームウェアバージョンが正しくアップグレードされていることを確認してください。

### Web-UI を使用したアップグレード

1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。デフォルトのシステム IP アドレスは 10.90.90.90 です。
3. PC 上で TFTP サーバを有効にします。(必ず TFTP サーバをご使用の PC にインストールを行っておいてください。)
4. お客様の PC から RJ45 ネットワークケーブル経由でスイッチにアクセスできることを確認し、Web 管理画面からログインしてください。管理者のユーザ名とパスワードを入力は、初期状態では登録されていないので「空白」でログインを行ってください。
5. スwitchのファームウェア更新を行うには、**Tools > Download Firmware > From TFTP** の順にクリックし、必要な情報を入力後、「Download」ボタンをクリックします。スタック構成の場合、「Unit」で All を指定します。

Download Firmware from TFTP

Download Firmware From TFTP

TFTP Server IP: [text box] ☒ IPv4 ☐ IPv6 ☐ Domain Name

Source File: [text box]

Destination File: [text box]

Boot Up: ☒

Download

- Unit : スタック ID を指定します。(スタックが有効化されている場合のみ)
  - TFTP Server IP: IPv4 もしくは IPv6 を選択し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
  - Source File : TFTP サーバ上に保存したダウンロード済みのファームウェアファイル名を入力します
  - Destination File : フラッシュドライブにファームウェアをロードするために、パスとファイル名を入力します。(例 : c:/DGS3620\_Run\_2\_70\_B016.had)
  - Boot UP : ここにチェックをいれると、再起動後にブートアップイメージファイルとして選択されます。
6. Current Status の値が Done. と表示されるまで待ちます。

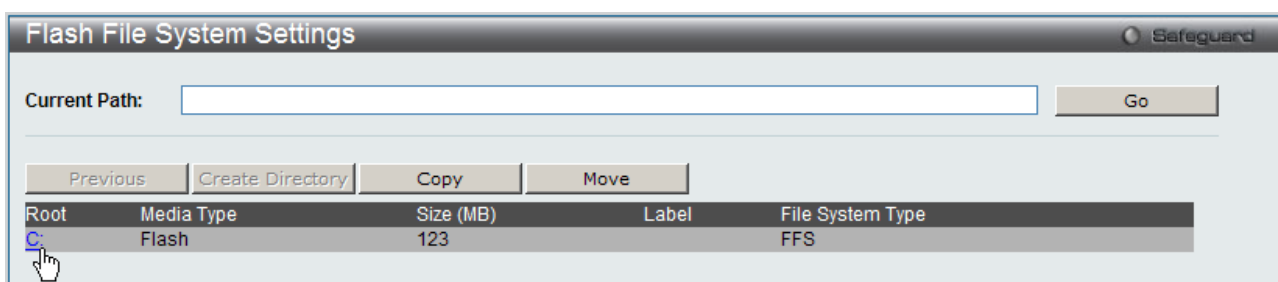
Current Status : Done.

Percentage: [progress bar] 100%

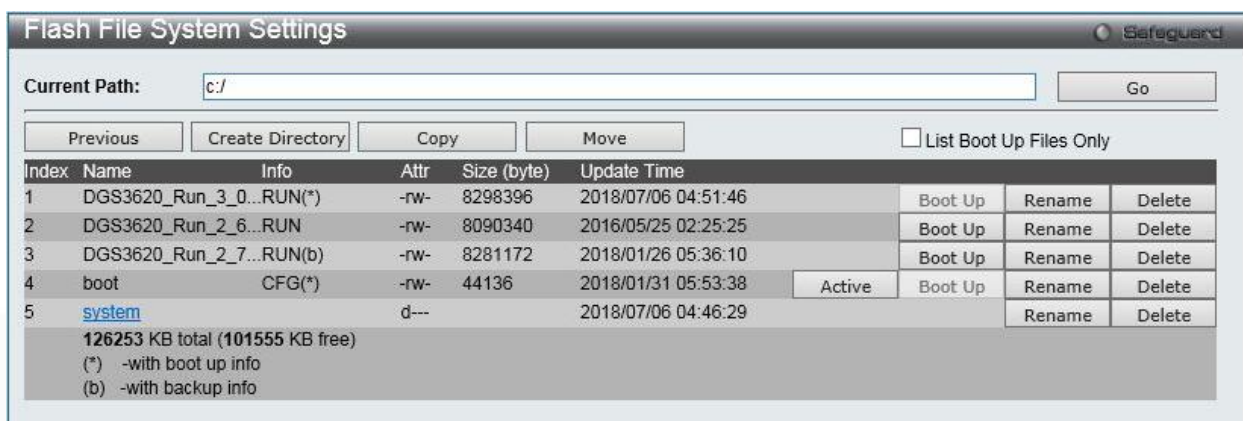
7. 次回のスイッチリブート時にブートアップを行うイメージが選択されているか確認するために、**Network Application > Flash File System Settings** の順にクリックします。



8. Root の C: をクリックします。



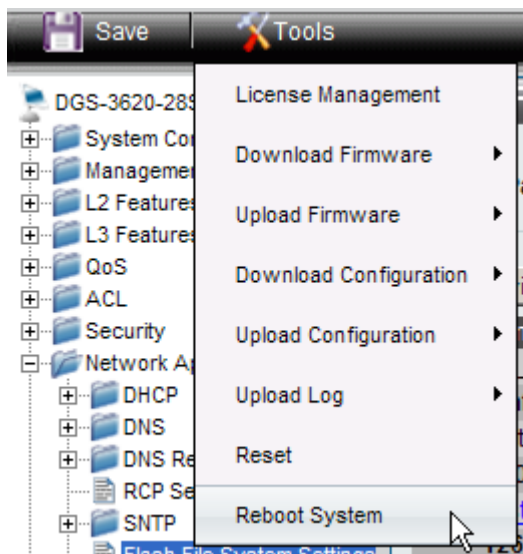
9. ファームウェアが無事にダウンロードされ、ブートアップイメージとして選択されているか否かを確認します。



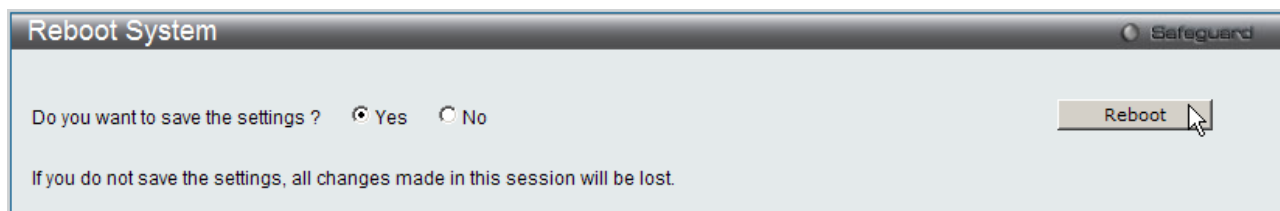
ブートアップイメージとしてファームウェアが設定されていない場合は、該当するイメージの行にある「Boot Up」ボタンをクリックし、ブートアップファイルとして設定します。

スタック構成の場合は「Current Unit」を選択し、それぞれのユニットでブートアップイメージの設定が正しく行われているかどうか確認します。

10. スイッチのリブートを行ないます。リブートを行なうには、**Tools > Reboot System** をクリックします。



11. 「Reboot」ボタンをクリック後、「Proceed to save the configuration and reboot the switch?」と表示されるので「OK」ボタンをクリックし、スイッチを再起動してください。



**注意：スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

12. システムの再起動後にログインし、ファームウェアのバージョンがアップグレードされていることを確認します。

## 追加機能：

ファームウェアバージョン	追加機能
V3.00.B011	特になし

## MIB および D-View モジュールの変更点：

ファームウェアバージョン	MIB ファイル/変更点
V3.00.B011	特になし

## コマンドラインインタフェースの変更点：

ファームウェアバージョン	変更点
V3.00.B011	特になし

## 修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
V3.00.B011	<ol style="list-style-type: none"> <li>筐体宛での ping、ssh など IP 通信に応答しなくなる事がある問題を修正致しました。</li> <li>Web GUI の SD Card Management メニューを削除致しました。(CLI のみでサポート)</li> <li>RCP を用いた Upload の処理が不適切であった問題を修正致しました。</li> <li>RCP の処理を中断した場合、以降の RCP の処理が実行されなくなる問題を修正致しました。</li> <li>IE10 を使用している場合、Network Application の設定において不正な UI フォーマットとなる問題を修正致しました。</li> <li>Q-in-Q 構成において 802.1p priority 値が適切に設定されずに処理される問題を修正致しました。</li> <li>sub_vlan の追加/削除を行うと、他の Active な sub_vlan の IP 範囲の設定が削除される問題を修正致しました。</li> <li>bypass_login_screen のステータス変更後、システムリセットを行っても当該設定が初期化されない問題を修正致しました。</li> <li>異なるネットワークを介したルーティングを行う際、OSPF によるルーティングが適切に処理されない場合がある問題を修正致しました。</li> </ol>

## 既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題
V3.00.B011	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンボポートにおいて、SFP の RX が信号を受信している状態では、SFP ポート、Copper ポートともリンクアップしない問題。(制限事項)</li> <li>2. ケーブル診断機能において、実行中にリンクダウンする問題。(制限事項)</li> <li>3. ケーブル診断機能において、Link 速度が 100Mbps(対向が FE のみサポートの PHY) の場合に診断結果が "Short"と表示される問題。(制限事項)</li> <li>4. DHCP Relay が有効な VLAN Interface において、Broadcast の DISCOVER packet を flooding しない問題。</li> <li>5. RFC2328 として設定されている OSPF プロトコル内に複数の定義が存在するため、アタッカーが正しくない LSA(Link State Advertisement)プロトコルを送信可能となる問題。  対策①:OSPF の MD5 認証を有効にしてください。  対策②:OSPF パッシブインターフェースを有効にし、OSPF に関係しないインターフェース上でアップデートされるルーティングテーブルの送受信を止めてください。  対策③：MAC-based Access Control を有効にし、ネットワークと通信する前にデバイスを認証してください。</li> <li>6. IPv4 OSPF 機能において、ECMP を有効にしている場合に、多数の等コスト経路が存在する際に、CPU 高負荷により OSPF の動作が不安定になる問題。(制限事項)</li> </ol>

**Copyright 2006-2018 D-link Japan K.K.**